

教育研究業績書

2020年10月27日

所属：英語キャリア・コミュニケーション学科

資格：教授

氏名：郷路 行生

研究分野	研究内容のキーワード
現代イギリス劇文学	metatheater, theatricality
学位	最終学歴
文学修士	関西大学大学院 文学研究科 英文学専攻 修士課程 修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 「文学作品演習 I A/B」での小テスト	2017年4月～現在	準備学修を徹底させるため、ほぼ毎回当日読み進めていく箇所についての小テストを実施し、翌週返却する。
2. 学生の授業理解をより進めるための授業展開	2011年	講義科目のみならず、演習科目においても、学生の理解をより深めるために、平易な表現での説明に努め、オーディオ・ビジュアル世代である学生に応じて、AV機器を活用した。また授業にμCamを導入し、課題をクラス全員で共有することを可能にした。
3. コンピュータを活用したリーディングの活性化	2012年度前期～現在	μCamを利用し、設問を予め家庭で解答させ、授業ではその解答をスクリーンに投影することにより、クラス全員で個々の解答の是非を考え、よりよい解答にするために意見を出し合う。普通教室でもPCが活用できる。
2 作成した教科書、教材		
1. <i>A Bad Example and Good Manners</i>	1987年1月	W. S. Maugham の短編小説集。日本初紹介となる作品を二篇取り上げた。
2. 「コンピュータによるリーディング」、「アドバンスト・リーディング」教材	2012年前期以降	Reading Material についての設問を自宅で解答し、それを集約するためにμCam上に設問をアップした。全24章。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 「文学作品演習 I A/B」での実務経験の活用	2017年4月～現在	上演用台本作成の経験を生かして、より実践的なテキストの読み方を指導した。
4 その他		
1. 西宮市大学共通短講座講師	2007年4月10日2007年7月31日	西宮市大学交流センターにて、「シェイクスピアの子供たち」の講義を担当した。
2. 「ひょうご講座」講師	2006年9月20日	「ひょうご講座」学外科目の講師として、「現代に生きる Shakespeare」の講義を行った。
3. 佐野公民館市民講座講師	2001年4月2005年9月	泉佐野市立佐野公民館の市民講座の講師として、シェイクスピアについての講義を行った。
4. 生涯学習鳴尾大学講師	2011年～現在	なるお会館にて、生涯学習鳴尾大学の講師として、「黒澤明とシェイクスピア」の講義を行った。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 高等学校教諭一級普通免許	1983年03月	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 上演用台本作成	2004年	京都大江能楽堂における能法劇団公演「Survival of the Fittest 弱肉強食」のサミュエル・ベケット『芝居 I』の上演用台本翻訳
4 その他		
1. (3)大学運営に関する事項 ②さらなる教育の質向上に関する提案	2019年2月～現在	採択された教育改善・改革プランのプロジェクトリーダーに選ばれた。
2. (3)大学運営に関する事項 ②さらなる教育の質向上に関する提案 授業収録、mvu.jpを利用した発信	2018年12月	標記の提案が平成30年度教育改善・改革プランに採択された。
3. (3)大学運営に関する事項 ①役職、教学局委員	2016年4月1日～現在	教務部次長
4. (3)大学運営に関する事項 ①役職、教学局委員	2010年4月1日から2016年3月31日	教務部常任委員

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. サミュエル・ベケットのヴィジョンと運動	共	2005年03月	未知谷	近藤耕人, 井上善幸, 岡室美奈子, ジョウゼフ・S・オリリー, 北文子, 郷路行生, スティーヴン・コナ

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
1 著書				
2. ベケット大全	共	1999年04月	白水社	一、管啓次郎、田尻芳樹、対馬美千子、平井杏子、堀真理子、森尚也 ベケットのラジオドラマにおける写実的舞台と非現実的舞台の転換点と考えられる『残り火』は、曖昧性に支配されている。他の登場人物の位相、主人公の生の意義、主人公が語る物語、その物語の位相、そしてこの作品そのものの位相も極めて曖昧な状態で提示されている。ラジオというメディアを利用することによって始めてこのように曖昧な状態を提示することが可能になる。内容と形式が見事に統一された作品といえる。 安達まみ・井上奈緒美・井上善幸・内田耕治・宇野邦一・岡室美奈子・川口喬一・来住正三・北山研二・郷路行生・近藤耕人・斎藤信平・坂原真理・清水徹・高橋康也・田尻芳樹・対馬美千子・中尾知代・西垣学他 1906年アイルランドで生まれ、1989年パリで死んだ、20世紀の文学に決定的な影響を及ぼしたノーベル賞作家サミュエル・ベケットの事典。現在の日本におけるベケット研究の到達点を世に問うている。「歩く・這う」「主従」「座る・寝る」の項目、および『言葉なき行為Ⅰ』、『残り火』、『言葉なき行為Ⅱ』、『カスカンド』、『言葉と音楽』、『ラジオ・ドラマ 下書きⅠ・Ⅱ』、『芝居下書きⅠ・Ⅱ』の作品解説を執筆。
3. 英米文学を学ぶよろこびー多田敏男先生古稀記念論文集ー		1995年05月	大阪教育図書	(荒木 倫子・モーリス J オーガスティン・出原 博明・藤田 佳信・井上 久夫・井上 善幸・今村 隆・上山 泰・ピーター メイキン・水野尚之・西山 徹・吉田 良・吉田 良夫・五幣 久恵・郷路 行生・橋本 賢二・樋口 欣三・広瀬佳司・今村 嘉之・上村 哲彦・貴志 雅之・越川 正三・増田 英夫・森本 俊男・森田 晃司・中山 喜代市・中山 喜満・名取 栄史・奥村 透・李 春喜・坂本 悠貴雄・関口 敬二・多田 敏男・高橋 美帆・高倉 正行・竹下 栄子・山根 明敏) □『わたしじゃない』でベケットは、後期戯曲の特徴とも言うべき頻出する繰り返しを用いることで、登場人物達と登場人物が語る物語に出てくる人物との関係や登場人物相互の関係、さらには観客と登場人物が語る物語の人物および登場人物との関係が揺らいでいることを描き出している。その結果、一見すれば演劇としての妥当性を疑われるこの作品に、メタ演劇性を付与している。(「サミュエル・ベケットの演劇戦略ー『わたしじゃない』をめぐってー」、pp. 470～482)
2 学位論文				
1. Samuel Beckett <i>Waiting for Godot</i> -- Gogo と Didi が待っているもの	単	1983年3月	関西大学大学院	二層性を持つ『ゴドーを待ちながら』は下向きの螺旋構造に支配されている。登場人物の一人は「見られること」つまり「知覚されること」に固執し、アイデンティティが確立されていない。このような世界から人間を救うゴドーとは「死」のことに他ならない。
3 学術論文				
1. <i>Romeo and Juliet</i> , Act III, Scene i 試論 (査読付)	単	2014年3月15日	<i>Mukogawa Literary Review</i> , No. 50	『ロミオとジュリエット』三幕一場は、喜劇的展開を示していた戯曲が急転直下悲劇へと向かうことになる大きな曲がり角である。Mercutio はRomeoの親友であるが、情報という視点から見ればTybaltと同じ立場にあると言え、さらには人間観という視点からもRomeoとは立場を異にすると考えられる。
2. <i>West Side Story</i> 試論 (査読付)	単	2011年09月30日	<i>Mukogawa Literary Review</i> No. 48	<i>West Side Story</i> はShakespeareの <i>Rome and Juliet</i> の舞台をただ1950年代のニューヨークに移しただけではなく、アメリカが建国時から抱えている矛盾を前景化し、さらには人類普遍の悲哀を描きだしている。
3. 預言者 Churchill — Caryl Churchill's <i>Cloud Nine</i> をめぐってー	単	2011年03月01日	<i>Mukogawa Literary Review</i> No. 47	<i>Cloud Nine</i> では、時間とずれや文化的環境的性的差異と生物学的性を舞台上で前景化することによって、長年に亘って世界を支配してきたヨーロッパ＝男性中心主義の崩壊を描きだしているが、同時にその後の世界の不確定性を強く読者の心に訴えている。
4. 溶解するあのときーSamuel Beckett's <i>That Time</i> をめぐってー	単	1997年03月	<i>Mukogawa Literary Review</i> No. 33	『あのとき』では、三つの声が交互に「あのとき」に纏わる物語を<聴く人>に語りかけている。やがて、それらは登場人物のアイデンティティが不安定である一つの物語へと収斂していき、人間の営為の無効性を提示することになる。観客もこの戯曲の明確な輪郭を掴むことに失敗する。このことから、観客自身の存在も揺らぐこととなり、この作品に組み込まれてしまう。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
5. やみのかなたを見つめて - Samuel Beckett's <i>A Piece of Monologue</i> をめぐって-	単	1992年02月	POIESIS 第19号 (関西大学大学院英語英米文学研究会刊行)	『モノローグ一片』の三つの相には、それぞれ下向きの螺旋構造が潜んでおり、その中で人間は自らの存在の証を求めるとして描き出されている。三つの相は互いに似通っているが、わずかなずれがあり、そのずれが観客をより深くこの作品に関わらせている。さらに、登場人物という仕掛けを用いて、観客をもこの戯曲の中に取り込んでいる。
6. 子守歌のフーガ - Samuel Beckett's <i>Rockaby</i> をめぐって-	単	1990年02月	POIESIS 第17号 (関西大学大学院英語英米文学研究会刊行)	後期のベケット戯曲は、一般的な意味においてもはや戯曲とは呼びえないように思われ、『ロッカバイ』もまたそうであると言えよう。しかし、ベケットは音や照明や舞台装置の動きなど「語り」以外の要素と「語り」とを巧みに用い、現代の人間が置かれている不安定な状況を「演劇的」に描き出し、観客をも下向きの螺旋構造に組み込むことに成功している。(pp. 95-107)
7. Samuel Beckett's <i>Ohio Impromptu</i> 試論: オハイオ四重奏曲	単	1989年02月	POIESIS 第16号 (関西大学大学院英語英米文学研究会刊行)	『オハイオ即興劇』には三層構造があり、その各々が互いに一致している。「語り」の中に繰り返し現れる箇所から、この戯曲が「終わりに近い状況」を描いていることが明らかになる。この戯曲に頻出する「鏡」のイメージから下向きの螺旋構造が存在することが読み取れる。そして“知覚する者”と“知覚される者”との統一が根源的に戯曲が持っているダイナミズムで描き出されていることが了解される。(pp. 1-14)
8. Samuel Beckett's <i>Endgame</i> 試論	単	1987年02月	POIESIS 第14号 (関西大学大学院英語英米文学研究会刊行)	『勝負の終わり』はすべてが「終わり」という一点へと収束しつつある状況を描いている。この世界は下向きの螺旋構造に支配されており、最終的には「頭蓋骨の内部」という位相に要約される。そこでは、人間の存在は不安定なものとなっており、この戯曲そのものがこの戯曲の登場人物が自らのアイデンティティの確立のために創造する物語の中へと収斂していく。(pp. 39-51)
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. <i>West Side Story</i> に見られるアメリカの悲劇	単	2006年03月	人文学会第54回研究発表会	Broadway Musical の傑作 <i>West Side Story</i> が William Shakespeare の著名な悲劇 <i>Romeo and Juliet</i> の舞台を現代の New York に置き換えた作品であることは広く知られている。しかし、この作品にはアメリカ建国の理念とそれと相反する現実の姿とが、抒情的に描き出されているからこそ、観る者の胸を強く打つと思われる。
2. 『わたしじゃない』の演劇性について	単	1993年12月	1993年度第2回ベケット研究会	『わたしじゃない』は、ベケット戯曲特有の繰り返しの多さなどのために、登場人物たちと登場人物の1人が語る物語に出てくる人物との関係や登場人物同志の関係が揺らいで描かれているばかりではなく、観客と登場人物が語る物語の人物との関係も揺らいでいるために、メタ演劇性を付与されている。
3. Samuel Beckett's <i>A Piece of Monologue</i> をめぐって	単	1990年09月	人文学会第13回研究発表会	『モノローグ一片』の「語り」には三つの相があり、その各々に下向きの螺旋構造が見出せる。世界は際限なく崩壊を続けるものとして表されている。そんな世界の中で人間は自己の存在を確立しようとしている。ベケットは戯曲のダイナミズムで観客をもその構図に組み込んでいる。
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. 京都大江能楽堂における能法劇団公演「Survival of the Fittest 弱肉強食」のサミュエル・ベケット『芝居 I』の上演用台本翻訳		2004年		
2. (パネリスト) □世界における日本文学 国文学科主催 武庫川学院60周年記念シンポジウム		1999年		
3. <i>A Bad Example and Good Manners</i> (編注) 旺史社		1993年		
6. 研究費の取得状況				
学会及び社会における活動等				

学会及び社会における活動等

年月日	事項
	日本英文学会 人文学会 The Beckett Society ベケット研究会 関西大学大学院英語英米文学研究会